

令和6年度 第4回東京都サービス管理責任者等研修検討会 議事録【要旨】

日 時 令和7年3月11日（火曜日）午後3時から午後5時まで
 開催場所 東京都心身障害者福祉センター12階研修室
 出席者 妹尾委員長、宮田副委員長、会田副委員長、橋爪副委員長、岡田委員、吉田委員
 横山委員、樋口委員、渡辺委員、小出委員、清水委員、丹澤委員、皆川委員、徳武委員（欠席 相良委員）
 事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長 外川 他3名
 公益財団法人総合健康推進財団職員 3名

1 開会

事務局	- 資料確認（事前にメールにて送付済） 次第 資料1 東京都サービス管理責任者等研修の演習指導者の確保について 資料2 サービス管理責任者・児童発達管理責任者研修実施への協力をお願い 資料3 令和6年度サービス管理責任者等研修検討会 活動報告（案） 資料4 東京都のサービス提供事業所において障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む 現場のリーダーの姿V e r . 5 - 研修の委託先の公益財団法人健康推進財団の方も参加している。 - 記録のため速記者が参加と録音させていただくこと、また、今回の検討会の議事録（要旨）はホームページでの公開対象であることについて、ご了承いただきたい。ただし資料については、出席委員の意見により公開、非公開を決めることができる。
-----	---

2 報告事項

妹尾委員長	検討事項に入る前に、総合健康推進財団から研修実施状況の報告をお願いしたい。今年度のサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者（以下、「サビ管等」という。）第2回基礎研修、実践研修の実施状況の報告、事務局から演習指導者養成研修（以下、「演指研」という。）の実施状況を報告いただく。加えて事務局からサビ管等研修事業に研修指定事業者の制度の導入の報告をいただく。まずは財団からお願いする
総合健康推進財団	- 第2回基礎研修の報告から。定員1,200名、受講決定が1,001名になっている。演習が11月18日を皮切りにL日程の12月25日までの全12日程で実施し、修了者が876名となっている。修了証書は2月7日に一斉送付している。 - 振り返り会は1月13日に実施をし、出席いただいたファシリテーター、教室進行の皆様が29名となっている。 - 続いて更新研修について、定員1,400名の募集に、受講決定が831名となった。修了者が758名となっている。修了証書は、12月13日に一斉送付している。 - 実践研修は今年度1,600名の定員に、受講決定が1,121名となって

	いる。演習はA日程が1月8日から全16日程を行い、2月28日までとなっている。修了者は1月が499名、2月が539名となっている。 ・ファシリテーター等説明会を12月18日に行い、出席者が合計で20名となっている。振り返り会を3月7日に実施し、1時間と短い時間だったが、出席者が12名となっている。 ・最後、第1回専門コース別研修について、定員250名に対して、受講決定者が183名となっている。動画配信は10月21日から23日まで行い、修了者が163名となった。 ・第2回が定員150名に受講決定者が138名。動画配信が1月20日から22日までの3日間行い、修了者が116名となった。
事務局	・演指研について報告する。前回の検討会のときに、第2回基礎研修のファシリテーター説明会について報告された。その後、基礎研修の演習指導者に従事していただき、第3日目の日程を12月26日に終了した。最終的に修了者は22名となり、第1回、第2回の合計が41名となった。 ・付け加えてになるが、既に福祉局のホームページでサビ管等研修のページが新しくなっており、中に「研修指定業者による実施」という項目が新たに加わっている。これは受講ニーズが年々増加していることに応じて、研修時期の選択や各種会場受講を可能とした受講機会の利便性の向上を目指すもの。当センターでは4月1日に令和7年度の研修予定をホームページに掲載する予定でいる。センターの研修事業は今後も、これまでどおり実施する。本検討会でサビ管等研修カリキュラムなどを検討いただくことに変わりはない。引き続きの協力をお願いしたい。
妹尾委員長	・委員から質問、確認の事項等あるか。
各委員	(発言なし)
妹尾委員長	・それでは、報告事項(2)令和7年度演習指導者養成研修について、受講者募集に先立ち、実施要領を改正されたということで、事務局から報告をお願いします。
事務局	・実施要領の推薦者について、新たに区市町村の障害福祉課から推薦していただくことを加えた。 ・都内62の区市町村に、ご案内を行い、区市町村課長会の席にも協力をお願いを行った。 ・皆様のお手元に資料1としてお配りしたのは、区市町村にご案内したもの。その中にあるように、受講人数の増加に対応するため、計画的に演習指導者を確保する必要があることと、質を担保するため、地域の人材の推薦をお願いしている。
妹尾委員長	・ここまでで質問、確認事項はあるか。
各委員	(発言なし)
妹尾委員長	・では、報告事案(3)令和7年度研修協力への意向調査について。令和7年度の研修協力者として、より多くの方を確保できるように、これまでファシリテーターとして協力くださっている方々に呼びかけを行っているところである。内容について事務局から報告をお願いしたい。
事務局	・資料2になる。例年のことであるが、今年度の事業の終了の感謝とともに、来年度の事業についての協力をお願いをさせていただいた。今年から、電子申請のフォームも見直しをし、入力のしやすさを心がけた。

	・本日現在、72名回答いただき、協力が難しいという方が2名ほどいたことを報告させていただく。 ・募集の期限は17日なので、申し込まれていないようなら、お願いしたい。
妹尾委員長	・この件について、確認事項、質問等はあるか。
各委員	(発言なし)

3 検討事項 年間のまとめ及び次年度への引継ぎ事項

妹尾委員長	・ここからは検討事項ということで、年間のまとめ及び次年度の引継ぎ事項を各チームで検討いただくことになる。事務局作成の活動報告案の確認と、次年度への取組としてまとめる内容の確認をお願いしたい。加えて今年度のテーマである、研修のつながりを意識したものになっていたかのポイントをまとめていただき、1年間のまとめとして次年度に引き継いでいきたいと思っている。では各チームで検討に入っていただけたらと思う。
各委員	(チーム討論)
妹尾委員長	・年度内最後ということもあり、時間が足りないところもあったかもしれないが、各副委員長から検討の結果報告をお願いしたい。
橋爪副委員長	・基礎研修です。今年度の振り返りに関しては、作っていただいた資料のまま使わせていただきたいたいということになった。次年度の基礎研修に関しては、支援プロセスを理解するところ、また個別支援計画をつくれるようになることが大きな柱になっているが、ここに必要な、例えばアセスメントなど、一つ一つのところを、より理解を深められるよう進めていくといった話になっている。特に、これまでの基礎研修では、アセスメントの部分が演習2、3、4とあったが、なかなか実質的なアセスメントというものを提示できていなく、どうしたらいいかと少し悩んでいた。演習2の中で、がっつりとアセスメントは、シートも含めて実際の現場で使われているものを取り入れて提示する形にしていこうという話になった。 ・演習の中でのテーマとしては、演習もそうだし、他の研修との兼ね合いもそうだが、いろいろなところで連動を図っていこうと話になり、同じ項目じゃなかったとしても共通する内容はあるので、そういう中で研修も講義も演習も全部つながっていくといいという話になっているので、来年は基礎研修は基礎研修として、ほかの研修といろいろやり取りをさせていただいて、同じテーマで話をしたり、具体的にこれはどうするのかとやり取りできるようになるといいという話になった。
宮田副委員長	・実践研修です。今年度の振り返りとして、先日、振り返り会もご参加いただきありがとうございました。大きなところとして、演習3の事例検討会と演習4のOJTを振り返るというのを順番を入れ替え、OJTを振り返るまでやってから、事例検討会からアセスメントで個別支援会議みたいな形で連動が取れるように、プログラムの後は時間調整ができるか考えていきたいというのが一つあった。 ・それと会議が3回あるが、事例検討会と個別支援会議の事前会議の内容が似ているといった話になったので、個別支援会議の事前会議を、演習3、5、6がつながることで、事前会議はこの事例検討会でやってしまい、計画作成をして計画の説明のような流れにすると、少し分かりやすいかと

	というのがあった。 ・いろいろなところで出ていたのが、やっぱり基礎研修と結構内容がかぶるが、同じことを繰り返してもやっぱり違うよねという話で、違いは何だろうとなった。基礎研修の会議は利用者さんをメインで見る、実践研修は助言指導が結構メインなので、スタッフのエンパワーメントとか、意見の引き出し方、まとめ方とか、そちらに重点を置くんだよというのを、狙いとして明確に伝えていけるといいというのがあった。 ・ICFについては、いろいろご意見もいただいていて、ICFの説明はするけれどシートはシンプルなものにして、アセスメントシートとして作ってしまって、モニタリングはアセスメントシートはここで完結していて、それを深めるみたいな感じの演習の流れにできるといいかと考えている。 ・演習4の助言指導のところは、OJTを振り返って皆で共有することになっているが、今後に向けて、こうしていきたいみたいなものを、もう1段階考えるワークに変えたい。 ・演習5は、アセスメントのシートをニーズの検討をメインにしたいと思うが、やっぱり基礎研修とは違うねという話になって、基礎研修の事例の竹村さんは結構自分のニーズを言える人だったけど、実践研修の井上さんは言えない人なので、言えない人に対してニーズを考えるのはどうしたらいいかということをメインにして、それが狙いなんだよといったことを明確に打ち出していけるといいと思っている。 ・基礎研修のことを私自身が理解できていなかったとすごく思ったので、先ほど橋爪さんも話されていたが、研修間の連携を、これから更にしていきたいと思っている。 ・演習6の個別支援会議のところは、計画の再作成と会議という二つの大きな軸。計画の再作成も、基礎研修とは違うねとなって、やっぱりサビ管としての役割と、計画の質を高めるという二つの目的があると思うが、どうしたらその枠の中でできるかというのは、今結論が出ず、今後考えたいと思っている。 ・ロールプレイは基礎研と同じように、他のグループと入れ替えたり、前半の会議の留意点を考えて、自分の振り返りをするみたいなのは、助言指導のところに全部まとめてしまおうかと思っている。 ・演習7の協議会のところで、前の流れから1回リセットして区切りをつけ分かりやすくしたいとか、やっぱり地域課題の考え方がケースワークになってしまうので、もう少し具体的に説明をしていこうとの話があった。自立支援協議会の説明はあるが、自分の仕事とのつながりが分からないので、そこをどう説明したらいいかというところを考えたい。
会田副委員長	・更新研修チームの進捗について報告する。今年の1月22日に更新研修チームで集まり、今年度やってみての振り返りと、次年度どうしていこうかという話をし、その後の進捗を今日確認したところ。来年度も建て付けは変わらず、演習は事前の動画配信と当日の集合型の演習、事後の動画配信という形式。 ・関係機関の連携についての科目が事前の動画配信で実践報告を聞く内容になっているが、何年か使っているので、実践報告の方を新たに選定して、できれば自立支援協議会の委員の取組とかも絡められる話ができる方で、

	ファシリテーターで参加されている方をお願いをしていこうかなと考えている。 ・今年度は、最初に演習で、事業所としての自己検証を45分、その後サビ管としての自己検証を60分という流れだったが、最初の演習は自己紹介だったりアイスブレイクをすると、どうしても事業所としての自己検証の時間を15分ぐらい超えてしまうので、次年度はサビ管としての自己検証を最初に行うことにして、その中に15分自己紹介とアイスブレイクを行うとして帳尻を合わせるので、演習の順番を入れ替えることにした。 ・その後、スーパービジョン（以下、「SV」という。）の演習が入っていくが、今年度は最初に職員へのSV、その後に事例検討のSVという流れだったが、次年度は、事例検討のSVを各グループごとではなく、教室全体で行う予定。先に職員へのSVを行って、その後教室全体で事例検討におけるグループスーパービジョンと順番を入れ替える予定で考えている。 ・教室全体で事例検討のSVを行うので、事例検討のスーパーバイザー役を教室進行の方にやっていただくようになるのと、当日参加するファシリテーターの中から事例提供者役をお願いをいこうと思っている。今年度よりも次年度はファシリテーターの役割はボリュームが増すことを承知していただければというのを、先に伝えさせていただきたい。 ・講義の事前動画の内容なども見返して、新たに撮り直すところは撮り直したいと思っている。
妹尾委員長	・各チームの方、どうもありがとうございました。ここまでで、質問とか、または同じグループの中から補足とかはあるか。
渡辺委員	・実践研修の動画も全部というか撮り直しをして、事例の内容をブラッシュアップしていきたいと思っている。 ・実は今回、個別支援計画のところに児童の5領域の話を載せるか、載せないかで少し迷いが出て、一旦、事例のようなものを載せたが、今はまだ児童の中でも分野の中でも5領域の話は、支援計画をどういうふうにするか模索中であるので、提示するのは難しいのではということだった。なので、その辺は基礎研修とか更新研修とかで、こういうふうにしていこうかという考えがあれば、聞かせていただきたい。
妹尾委員長	せっかく投げかけがあったので、いかがか。
横山委員	・やっぱり基礎研修は大枠としてプロセスだから、児童に特化という提示の仕方は今のところあまり考えていない。ただ考え方として、児童はこういう領域とかがあるよというのは講義の中でも話したところ。あまりそこばかりに着目し過ぎてしまうと、例えば、就労と言っても就労B型がいたり、就労移行もいて、就労の中でも違うアセスメントの取り方になる。児童分野の方は、専門コース別研修をきちんと受講して獲得してもらうのが、良いのではということになっている。
皆川委員	・ほぼ横山さんと同じだが、更新研修の中でも大事な柱が職員養成等で、5領域を入れてしまうとぼやけちゃうかと思っている。もしかしたらファシリコメントで、ぜひ5領域について触れてくださいといったコメントを入れてもらうことで、補うという形が一番分かりやすいのかと思った。
妹尾委員長	今の意見は、渡辺委員はいかがか。
渡辺委員	・私も同感で、研修の目的というか狙いからずれてしまっていて、児童はこうだ

	からと受講生から前に出てこられると、それも違っちゃうので。今のお話をいただいて実践研もそういうふうに盛り込んでいければいいかなと思った。ありがとうございました。
宮田副委員長	先ほど、発表のところでも話したが、研修同士の連携をどう取っていけばいいかを考えたいとすごく思っている。毎年ブラッシュアップされているので、内容として大枠は聞いて理解しようとしているが、やっぱり細かなところまでは発表はされないと思う。自立支援協議会は更新研修と関わっていくし、実践研修はどちらにも関わるので、基礎研修とか更新研修と情報共有する場を、定期的というか、その研修の内容が固まった時点でさせていただけると大変ありがたいと思う。
妹尾委員長	- その他はいかがか。今のご意見を伺っていて、「こういう意図があって変えます」という報告は皆さんから聞くが、それが最新の資料としてはどう変更して、こういう理由でここを変えましたというのが皆さんが閲覧できると、研修間で連動させていくところで迷っていたことなどがよりクリアに、その後につなげていけるのではと思う。実際そのやり方とタイミングが結構微妙なので、事務局のほうでもその辺りを検討いただくことでいかがか。 - せっくなので今年度最後のため、つながりというところを意識して、今の意見に重なってもいいし、個人的なつながりをどう大切にするかということの見解でも結構なので、皆さん、一言ずつコメントをいただこうと思う。
橋爪副委員長	連動を取らないといけないという話は出ていて、個人的にはこの会議をもうちょっとうまく使った方がいいかなと思っている。どうしても、みんな時間が無いから打合せに使っちゃうんだけど、全員が会しているこの場をうまく使っていて、ポイントだけでも、基礎研修だったら例えば、「ニーズはこう行きたいんだけど」などを出せる時間帯があってもいいのかなと思う。
岡田委員	- 今言われていたような意見がほぼ。実践研でICFが出ていて、基礎研でも講義で言っていて、基礎研をやりながら、もう少しこれを演習でも取り入れられたらと思っていたところ。でも受講者は、これは基礎研修でも言っているはずなのに、全然覚えていないなみたいな。なのでその辺りも実践研修ではここから、基礎研修ではここまでみたいなのが、より共有できていたら良いかなと思っているし、いつもチームごとに分かれているが、1回チームに分かれてもいいとか、いろいろ情報交換させてもらえたらうれしいと思っている。 - 先ほどの、児童の話でもあったが、基礎研はやっぱりファシリテーターのコメントで補足していこうとなっていたが、演指研でファシリ的人数が増えて、基礎研で児童分野のファシリが一人もいなかった日もあったと思うので、その辺りは、読み原稿とかで補足した方がいいか考える必要があるのかなと思った。
横山委員	児童の講義の中で、分野のアセスメントをしゃべる講義があるが、そこを考え直すというのも話に出ていて、基礎研修だけではない全体で、実践研修でも更新研修でも児童という分野があって、基礎の部分で聞こえてくるのが実践の考え方、更新の考え方と一緒にいいかなと思うので、ぜひ基礎

	研修の講義の部分を、児童分野の皆さんに一度資料などを提示して、一緒に検討してつくっていきけると連動がより生まれるのかと思うので、ぜひ宮田さん、皆川さん、協力をお願いしたい。
吉田委員	・私も実践研修のファシリに参加したときに、やっぱりそこで気づくことや、結構、ここは基礎と一緒にだなとか、ここはちょっと分かりづらいのかなとかある。大体その場で熱量が上がって、終わるぐらいには、ああ終わったと言って帰っちゃうんで、そこを継続しながら自分で体感してみると実際に基礎研修をつくっている、基礎研修をやりながらも実践研修を体感すると、すごくそこをあぶり出されるなど感じたところである。
会田副委員長	・更新研修は、実践研修が終わってから一番間隔が空く人だと5年たって研修を受けるので、実践研修で受けたことを思い返してというのも難しそうなのがあったり、うちの事業所も基礎研修を受けている職員が何人かいたが、正直、基礎研修を受けた職員のほうが、更新研修を受けている職員よりも個別支援計画とかの質は良いのだろうなと思ったりするのは、ちょっと悩ましいところ。なので基本に立ち返ろうみたいな視点をどう入れられるかは、岡田さんが言われていたような、委員をたまにごちゃ混ぜにして話してみるというのも一つかなと思うし、丹澤さんが今年度は巻末資料で難しい用語集とか、そういう補足をすごく取り組んでいるので、うまく生かして基礎研修、実践研修でポイントになったこととかを時々思い返せるような仕掛けとかができるといいのかなと思った。
徳武委員	・皆さん話されているとおり、基礎研修、実践研修等の何か情報交換というのは本当に大事だなと思いつつ、皆さん忙しい中なので、どういうふうに時間を有効に使うかということだと思う。更新研修でたまに話しているのは、SVの内容が加わり、国研修の内容に沿って行っているが、個別支援計画について確認するような内容がほとんど更新研修になくて、それで基礎研修を受けた人のOJTに役に立つ研修の内容じゃないよなとは思っていて、その辺も皆さんと一緒に考えていけるといい。SVの内容が必要ないとは思わないが更新研修こそ個別支援計画について、もう一回確認する必要があるのではないかと考えている。
丹澤委員	・今、徳武さんが話されていたように、更新研修で一切個別支援計画に触れていない、だから自己流になってしまっているのではないかなと思う。更新研修に行けばそれが軌道修正できるんじゃないかということを期待されている方もいる。なぜそれを取り扱ってないんだという声も実際耳にしている。それも今後の課題なのかなと思っている。 ・あと自立支援協議会について、まさしく基礎研修、実践研修、更新研修とそれぞれの自立支援協議会の担当の方と情報交換をして、どういう資料を作ったらいいのか、どのように連動性を持つのかという話を是非したいと思っている。 ・国研修に前回出たときに、研修で盛り上がっていても自立支援協議会のところになると途端に盛り下がると全国から声が上がっていて、東京でもそれは感じている。つい最近、実践研修の教室進行を終えたばかりで、そのときも自立支援協議会は何か別世界の話みたいな感じで、何の活動をしているか分からないという声もすごく聞いた。中には自分の法人の中で委員を出しているにもかかわらず、うちの法人とか身近に委員がいませんと、

	発表してしまう人もいて、浸透していないのは実際自分も八王子市の自立支援協議会の専門部会の委員をやっているが、活動に対して何かベールに包まれた活動なんだなと思い、反省している。ぜひ共通した分かりやすい資料を作りたいので連携したいと思っている。
皆川委員	・このところ、基礎研修も更新研修も実践研修も教室進行やファシリテーターをコンスタントにさせていただく機会を持ちまして、ようやくつながりと口だけで言っていただけでなく腑に落ちて、やっぱり本当に大事なんだなと思っているところ。 ・どこの研修も台本が秀逸で、すごくメッセージ性を感じる。そこでつながっていることを分かる人は分かるというか、その視点で見るとよくつながっているなと思っている。もう一つは、いろいろなものを盛り込みつつもシンプルにどれだけできるか、というか同じ言葉を繰り返せるか、違う言葉を同じように言うかとか、そういうところなんだろうと。つながりという意味で思いついたことはそういうところ。 ・個人的な事情として、職場にいながらのディスカッションとか、回答してくださいというのは、とてもじゃないけれど難しいので、本当にここの場に強制的に来させられて、それしか考えちゃいけないような状況でいろいろ協議ができるということは、私はとてもありがたいので、この場は確かに活用できそうということに1票入れたいと思う。
小出委員	・私も今年度、実践研修の担当している中で、基礎研修と更新研修と全部、ファシリをやったりして、つながりはすごく意識できたと思う。うちの職員が研修に出るので、私も一緒に事前課題とかを一緒にやったりすると、すごく理解が深まるので、本当にそれぞれの研修がすごく意味のあるものになっているが、ではつながりとなると本当に難しいし、受講して初めて初めて分かることもあったので、ぜひ、この場を大事な機会にしたい。 ・ファシリをやっているときに、基礎研修や更新研修のファシリをやったという人がいたり、ちょっと情報が聞けたりということもあった。 ・あと、すごく伝えることの難しさを感じて、自分たちでは進行スライドとか完璧と思っているが、実際に現場でそれをしゃべってくれているのを聞いて、これはちょっと伝わらないなというのもすごく思ったので、その辺をどう伝えるかとか、集合の距離感によっても全然、受講者の理解というか感覚というのか違うと思った。実践研修でも話したが、ポイントのスライドを作るとか、基礎研修と更新研修とのつながりのスライドが途中途中に出てくるとか、何か共通性を持たせたものができたらいいのかなと思ったし、言葉の使い方も含め共有できたらと感じた。
渡辺委員	・今年度、私の担当した演習のところには修正が多く、皆さんにご迷惑をおかけした。先ほどから話をいただいている、この検討会に、せっかく皆さん来ているので、まずばらけて互いの研修の情報共有や、こうしたらいいねというのをやって、自分の担当の研修に持ち寄ってどうするみたいに行けると、皆さんの意見をブラッシュアップしやすいなと。もちろん振り返り会とかをいただいているので、それも持って行くと思うが、この場でも忌憚のない意見をいただきたいと思っている。 ・実践研修から基礎研修の人たちにメッセージをとということで、つくらせていただいたので、更新研修と実践研修のつながりみたいなこともあると良

	いなと思ったので、やはりつながりは大事と今回改めて確認させていただきました。ありがとうございました。
樋口委員	・私は皆の話を聞いていて、本当にテーマを持って、例えばニーズでも基礎はここを伝えたい、実践研修はここを伝えたいとか、協議会もこういうことを伝えたいとかあると思うので、何か一つのテーマごとにどういうことを伝えるかとか、教室進行のほうでも一応原稿はあるけれど、結構アドリブを使っている方もいるのではと思う。そういうのもまとめて、もう少し受講者が伝わる例え話とか、メッセージ性が出るといいのかなと思ったりもする。 ・うちの職員も、実践研修を受ける前に基礎研修のことを覚えているか聞いたら、やっぱりほぼ覚えていない。実践研修の事前課題も基礎研修の復習みたいなものも書いてあるが、結構不正解で、どこから拾ってきたんだろうみたいな。本当にOJTがすごく大事で、OJTをできるように、実践研修はそれを本当に伝えなきゃ駄目だし、基礎研修はOJTを経験してというところが本当に要になってくるのかと思うので、ぜひ全体で、今日はここと、ここについて共有しようみたいな会があってもいいかなと思った。
宮田副委員長	・私も検討会の中で助言指導とスーパーバイズグループとか、自立支援協議会グループ、計画アセスメントグループみたいな感じで分かれて情報共有できるとありがたいと思った。更新研修でも意見が出ていたが、計画作成とかを更新研修で触れなくていいとか、実践研修だと助言指導と連携がメインだが、やっぱり計画作成に触れないといけないのではとか、受講者を見てきて、最初のリーダーの姿でつくったものから、内容は実際は変わってきたりしているのかなと思うので、この辺りも関連づけて修正をかけていくような時期に来ているのかなと少し思っている。 ・受講者が全然覚えていない方と、すごく覚えている方と結構分かれてきていて、今年は結構覚えている方がいるなと思った。振り返り会でも話したが、事前課題をしてきたからなのか、結構、基礎研修のことを覚えてきている。やっぱり都の研修なので、皆さんこれが正解だと思って学んで身につけて、現場に戻っていかれる感じだし、そうなってほしいとは思いますが、実践研修で総合的な支援方針を書くみたいなのがあって、そこに「サービス等利用計画の方針をそのまま転記すればいい」と言い切った受講者がいた。基礎研修で時間がないから転記するみたいな感じになっているので、それをそういうものだと、時間がないから書きますよ、全部すっ飛ばして時間経過の中で、その人はそうすると多分置き変わったんだろうなと思って、そういうこともあると思うと、やっぱりこちらとしては研修のつくり方や伝え方というのがすごく大事だなと改めて思った。
妹尾委員長	・皆さん、忌憚のない意見をどうもありがとうございました。今年度はメンバーが変更なかったこともあり、つながりについて非常に掘り下げた意見をいただいた。会議の持ち方とつながりの中でも、どのようなキーワードで主に話し合ったらいいかという、割と着眼点が明確になった。今後その点について、会議の持ち方等事業所のほうでも検討いただければと思う。 ・活動報告の部分については、基礎研修からは提案内容に変更なしという意

	見だったが、更新研修、実践研修は大丈夫か。
各委員	(発言なし)
	・では、そちらについては変更なしということ。 ・橋爪委員が本日で最後になるので、少し挨拶を含めてコメントをいただければと思う。よろしくお願いいたします。
橋爪副委員長	・長い間ありがとうございました。つながる話の後に、この話をするのは妙だが、基礎研修のメンバーがずっと替わってきて、最後は僕が残って、僕が抜けてもう全員一周したかなというところで、回っていくのはいいのではないか。すごく勉強になったし、すごく仲間もできて、とてもいい時間をいただいた。頑張ってください。ありがとうございました。
妹尾委員長	・お疲れさまでした。 ・議事録と資料のホームページ公開について委員の皆様よろしいか。
各委員	(異議なし)

5 まとめ

妹尾委員長	・本日の検討事項は全て終了したことを宣言し、進行を事務局に戻す。
事務局（地域支援課長）	・ありがとうございました。 ・令和6年度を振り返ると、会場開催を基本とした演習については、大型台風が接近する中、研修の開催も危ぶまれるようなこともあったが、おかげさまで全ての研修を無事に終了、実施することができた。 ・検討委員の皆様には大変お忙しい中であって、各研修のつながりを意識した取組みだったり、教材の作成、説明会の準備など研修の質を高めるための検討を精力的に進めていただいた。 ・今年度は各研修の教室進行を検討委員の皆さんに担っていただきながら、経験の浅いファシリテーターの相談にも応じていただいた。経験の浅いファシリテーターの皆さんからは受講者にタイミングよく助言することができたなど、数多くの感謝の言葉もいただいている。全ての研修が無事に終了できたのは、妹尾委員長をはじめ、委員の皆様、総合健康推進財団の皆様ののおかげであり、この場を借りて感謝申し上げる。 ・引き続き、皆様のお力添えをいただきながら、今後も東京における障害福祉の発展に向けて、特に当事者主体を大切にした研修を展開できるよう尽くしたいと思っている。 ・とりわけ研修を円滑に進めるためにはファシリテーターの存在が欠かせないと思っており、今度は推薦者を区市町村にも広げながら募集していくステージをつくったが、引き続きファシリテーターの確保についてはご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。 ・1年間本当にありがとうございました。それでは、以上をもって閉会としたい。